

## 日本キリスト教会大阪北教会

2017年8月27日(日) 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

### 聖書 エフェソの信徒への手紙 4章7～16節

04:07 しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています。04:08 そこで、「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、人々に賜物を分け与えられた」と言われています。04:09 「昇った」というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないのでしょうか。04:10 この降りて来られた方が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られたのです。

04:11 そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。04:12 こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、04:13 ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。04:14 こうして、わたしたちは、もはや未熟な者ではなくなり、人々を誤りに導こうとする悪賢い人間の、風のように変わりやすい教えに、もてあそばれたり、引き回されたりすることなく、04:15 むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。04:16 キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

### 説教 『愛に根ざして真理を語る』

◆先週の説教において、聖書は神様からのイエス様からの私宛の「遺言」のような御言葉であり、パウロの手紙は、その遺言による私が相続する財産の一覧表のようなものとして読めばよりよく分るでしょうとの趣旨の事を申し上げました。そうなのですが、実際の遺産相続となりますとしばしば争い

事になり、スムーズに行かないことを見聞いたします。そのような場合、弁護士を立てて、事を収めてもらうこともしばしばです。

◆ところで今日の7節～10節までの箇所は必ずしも分り易くはありません。言わんとする所の要点は、「キリストの愛の勝利」とその戦利品の分与ということです。いつの時代でも戦は望ましいものではありませんが、戦争があり、勝利をした側の支配者はその戦利品を配下に分与いたします。そのような例を念頭において、その十字架と復活において、その御愛において全てに勝利され、すべてを治めておられる主イエス・キリストは天地万物に満ちておられ、その恵みと賜物をキリスト者各自に分け与え給う。そして、天地万物に愛が満ち溢れることをひたすら願っておられるのです。

◆愛とは、人一人の存在の絶対的価値、存在意味を認め、その姿勢を貫くことです。この愛こそは、今の時代においても、そして未来永劫、絶対に不可欠な一事なのです。神様の御言葉であれ、イエス様の御言葉であれ、パウロの言葉であれ、私の言葉であれ、皆さん一人一人の言葉であれ、その根底に愛があるかどうか、それが決定的に大事です。もし愛がなければ、一切は無益なのです。今年が宗教改革500周年の記念の年に当たることは、もはや周知の事実です。そしてルターがヨハネによる福音書の3章16節を「小福音」、つまり、「聖書が語る福音の核心・中核」という意味ですが、それは、こうです。『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。』愛とは、無私の奉仕のことです。自分のためには何一つ求めないで、只管、隣人を愛し、隣人に仕え、永遠の命、永遠の祝福、永遠の幸いをもたらす事です。これが神様御自身の愛であり、その御子イエス様の人生でありました。

●私達は皆それぞれ実に個性的です。与えられた賜物は皆違います。しかし13節にこうあります。「わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさ

になるまで成長するのです」と。この目標においては一つでなければなりません。これは終生の目標であります。キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。私達の目標はキリストの満ちあふれる豊かさなのです

◆今日の日曜学校では、マタイ伝7：7～12節を子供たちと読みました。

「07:07 求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。 07:08 だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。 07:09 あなたがたのだれが、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。 07:10 魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。 07:11 このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。 07:12 だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」この12節の下線を引いたものが「黄金律」と呼ばれるものです。聖書の教えの核心です。

◆私達各自は、主イエス・キリストに満ちあふれる完全な御愛にまで成長するのです。そして各自は、遣わされたものです。今年の主題聖句は、ヨハネ伝20章21節にある主イエス様の御言葉です。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」各自、遣わされたところで、キリストの香りを放ってください。「愛に根ざして真理を語る」ということは当然牧師に当て嵌まる事です。しかし、牧師一人だけの事ではありません。主イエス様のものとされた皆さん一人一人の生活が、主イエス様に根ざし、キリストの御愛に励まされて、イエス・キリストの愛を発散するのです。ヘブライ語で「言葉」という言葉は、『ダーバール』と言います。そして『ダーバール』は同時に、「出来事」「行為」をも意味します。キリストに根ざしているなら、その実は「愛」なのです。

◆最も小さい者の無比なる価値、存在意味を物事を中心に据える宗教がキリ

スト教だといってよいでしょう。パウロはコリント前書 12 章 18 節以下でこのように言っております。「神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。 12:19 すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。 12:20 だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。 12:21 目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません」と。実に小さい存在が、自ら気付かないで、偉大な事柄の欠かせない「一齧」にされているのが、人生の不思議です。そしてそのことに当人は全く気付いていないことが多いのです。

◆キリストにおいて示された神の愛・アガペーのお陰で、いと小さい滅ぶべきべき者が、朽ちることのない財産を相続する者とされているのです。今日もまた 268 番の讚美歌の歌詞を引用いたします。

“悲しみ尽きざる 浮世にありても 日々主と歩めば 御国の心地す  
ハレルヤ！ 罪咎 消されしわが身は いづくにありても 御国の心地す”  
わたしも共感を持って繰り返し歌っています。これが、今・ここにいる私達一人一人であります。わたしたちの生活が、神様の御愛、イエス様の御愛の生きた証であるように、今週の日々を生きましょう。

各自キリストと一体である者として、また互いにキリストの身体なる教会の、不可欠の部分である事を忘れないで、日々を過ごそうではありませんか。

◆お祈りいたします。

愛に満ち給う主イエス・キリストの父なる神様。

わたしたちが何者であれ、どのように生きるとしても、あなたがわたしたちと共に一体であってくださることを新たに覚えて感謝いたします。わたしたちすべてが、一人一人が、あなたの御愛の生きた証であるように、わたしたちを捕え、常にわたしたちと共に歩んでください。

この祈りイエス様のみ名を通しみ前にお献げいたします。アーメン。